審査品質管理の実施体制・実施状況に関する各委員による改善提言

審査品質管理の実施体制・実施状況に関し、これらの評価を通じて得られた改善点について、以下のとおり提言する。

(1) 評価項目 文書の作成状況

- ・各種文書（品質ポリシー、品質マニュアル、審査基準、審査ハンドブック、ガイドラインなど）の存在、役割、全体の中の位置付け、及び相互関係を、例えば一覧表などでの明示（渡邊委員）

(2) 評価項目 品質管理の基本原則等の制度ユーザーへの公表及び職員への周知に関するもの

- ・国内外ユーザーへの情報発信の強化発信（渡邊委員）

(3) 評価項目 審査実施体制に関するもの

- ・ファーストオフィスアクションを最先に通知する日本国特許庁の審査タイミングを活かして、世界の審査のデファクトスタンダードになる世界最高品質の審査の取組みの継続（小原委員）

(4) 評価項目 品質管理体制に関するもの

- ・審査の品質向上及び効率化を支援するシステム開発の継続（小原委員）
- ・質の改善・保証のためには、業務に従事する全員の参画が不可欠。このような視点からの評価・見直しを行い、全員参加をどのようにして実現するかを検討（中條委員）
- ・ユーザー評価調査の調査対象の拡大（渡邊委員）

(5) 評価項目 品質向上のための取組に関するもの

- ・より一層の内外公知文献等の収集、共有化（飯村委員）
- ・IoT関連技術に係る発明について、新設された特許分類（ZIT）の複数の分野に跨る適正な付与（小原委員）
- ・IoT関連技術に係る発明等の審査が複数の分野に跨る場合の審査官の間の協議の整備（小原委員）
- ・海外非英語文献の調査ツールおよび体制の強化（近藤委員）
- ・実体面のチェックにおいて、案件ごとの強弱を付与（例えば、審査官が不安に思う件等について、タグ付けを行い、タグがついている件については、時間をかけてしっかりとチェックを行う等）（長澤委員）

- ・外国特許文献調査、非特許文献等の調査の強化（渡邊委員）

（6）評価項目 品質検証のための取組に関するもの

- ・特許庁内部での品質管理の取組の結果をわかりやすくまとめて公表し、それについてユーザーの意見を聴く機会（浅見委員）
- ・ユーザー評価調査の調査対象の拡大（渡邊委員）

（7）評価項目 審査の質の分析・課題抽出に関するもの

- ・特許異議申立において使用された証拠の分析を通じて、審査、特にサーチの適切性を検証する取組の推進（浅見委員）
- ・「結果」と「取り組み」を区別して議論ができるようになったのは大きな進歩。それぞれについての「計画」と「実績」を明確にした評価・見直しができるようになればさらにもう一段レベルがあがる（中條委員）
- ・ユーザー評価調査の調査対象の拡大（渡邊委員）

（8）評価項目 質の高い審査を実現するための方針・手続・体制（評価項目～）の改善状況

- ・改善を進める基本的な手続（＝改善を報告する際のスタイル）について学び、その学んだ手続を用いた改善活動の整理（中條委員）

（9）評価項目 品質管理の取組（評価項目～）の改善状況

- ・改善を進める基本的な手続（＝改善を報告する際のスタイル）について学び、その学んだ手続を用いた改善活動の整理（中條委員）

（10）評価項目 審査の質向上に関する取組の情報発信に関するもの

- ・インド・ASEAN 諸国等、我が国企業が多く進出する国の知財庁に品質管理の取組も含めた情報発信を行うことによる、これらの知財庁の審査実務能力向上への寄与（浅見委員）
- ・各国の弁理士会等の代理人協会などへの積極的な情報発信（本多委員）
- ・国内外ユーザーへの情報発信の強化（渡邊委員）

2. 意匠

(1) 評価項目 文書の作成状況

- ・各種文書（品質ポリシー、品質マニュアル、審査基準、審査便覧、ガイドラインなど）の存在、役割、全体の中の位置付け、及び相互関係を、例えば一覧表などでの明示（渡邊委員）

(2) 評価項目 手続の明確性に関するもの

- ・サーチ範囲に関し、権利者のみならず第三者を含むユーザーとの情報共有の観点から、公報への記載（渡邊委員）

(3) 評価項目 品質管理の基本原則等の制度ユーザーへの公表及び職員への周知に関するもの

- ・国内外ユーザーへの情報発信の強化発信（渡邊委員）

(4) 評価項目 審査実施体制に関するもの

- ・審査官数の確保及びその育成の充実（小原委員、長澤委員）
- ・国際意匠登録出願に対応するための人的な補強（本多委員）

(5) 評価項目 品質管理体制に関するもの

- ・審査の品質向上及び効率化を支援するシステム開発の継続（小原委員）
- ・質の改善・保証のためには、業務に従事する全員の参画が不可欠。このような視点からの評価・見直しを行い、全員参加をどのようにして実現するかの検討（中條委員）
- ・ユーザー評価調査の充実（調査票数の増加）、及び調査対象の拡大（中小企業、外国企業など）（渡邊委員）

(6) 評価項目 品質向上のための取組に関するもの

- ・協議の促進と審判決の情報の共有（浅見委員）
- ・審査官の経験年数や分野変更に関し、審査官の品質が横並びで担保できる仕組み作り（近藤委員）
- ・ユーザーとの情報共有の観点による意匠公報へのサーチ範囲の記載（渡邊委員）
- ・国際意匠登録出願に対するユーザーへの情報提供の強化（渡邊委員）

(7) 評価項目 品質検証のための取組に関するもの

- ・国際意匠登録出願の審査に対応した品質監査等、品質管理の取組の充実（浅見

委員、小原委員)

- ・審査と審判の判断が異なった案件の分析結果の審査部内での情報共有、対策(近藤委員)
- ・品質監査システム稼働による、監査業務効率化に向けた運用の検討(長澤委員)
- ・ユーザー評価調査の充実(調査票数の増加)及び調査対象の拡大(中小企業、外国企業など)(渡邊委員)

(8) 評価項目 審査の質の分析・課題抽出に関するもの

- ・監査を行ったものも行っていないもので判断の違いが出ないように仕組み作り(近藤委員)
- ・「結果」と「取り組み」を区別して議論ができるようになったのは大きな進歩。それぞれについての「計画」と「実績」を明確にした評価・見直しができるようになればさらにもう一段レベルがあがる(中條委員)
- ・拒絶理由通知等の記載の改善(渡邊委員)
- ・ユーザー評価調査の充実(調査票数の増加)及び調査対象の拡大(中小企業、外国企業など)(渡邊委員)

(9) 評価項目 質の高い審査を実現するための方針・手続・体制(評価項目 ~)の改善状況

- ・改善を進める基本的な手続(=改善を報告する際のスタイル)について学び、その学んだ手続を用いた改善活動の整理(中條委員)

(10) 評価項目 品質管理の取組(評価項目 ~)の改善状況

- ・改善を進める基本的な手続(=改善を報告する際のスタイル)について学び、その学んだ手続を用いた改善活動の整理(中條委員)

(11) 評価項目 審査の質向上に関する取組の情報発信に関するもの

- ・代理人を含む、より広いユーザーに対する品質管理に関する情報発信、意見交換(本多委員)
- ・国内外ユーザーへの情報発信の強化(渡邊委員)

(9) その他

- ・先行意匠のデータのユーザーへの供与、実用品の著作権保護との境界等を解決すべき(飯村委員)

3. 商標

(1) 評価項目 文書の作成状況に関するもの

- ・各種文書（品質ポリシー、品質マニュアル、審査基準、審査ハンドブック、ガイドラインなど）の存在、役割、全体の中の位置付け、及び相互関係を、例えば一覧表などでの明示（渡邊委員）

(2) 評価項目 手続の明確性に関するもの

- ・ユーザーニーズを踏まえた商標審査基準の見直し（浅見委員）
- ・出願人・関係者の手続保障という観点から、より手続に関する便覧・マニュアルの充実（古城委員）

(3) 評価項目 制度ユーザーへの公表及び職員への周知に関するもの

- ・国内外のユーザーに対する情報発信の強化（渡邊委員）

(4) 評価項目 審査実施体制に関するもの

- ・新しいタイプの商標審査の促進と適切な判断のための審査体制と品質管理体制の充実（浅見委員）
- ・重要案件の協議の促進と審判決や外部意見（マスコミを含む）の情報の共有化（浅見委員）
- ・より充実した審査体制の確保には人員配置の増強が望まれる（井上委員）
- ・審査官数の確保（小原委員）
- ・商標審査基準に基づく審査の着実な実施（小原委員）
- ・審査官数の確保及びその育成の充実（長澤委員）
- ・新しい商標対応等も含めた出願増に対応すべく、人員確保の検討が望まれる。審査官体制の変更により質が悪化してしまわないよう、バランスを考慮しながら引き続き体制を維持・向上頂きたい（近藤委員）
- ・商品・役務の特殊な表示に対する審査強化及び審査官の人的強化（本多委員）

(5) 評価項目 品質管理体制に関するもの

- ・新しいタイプの商標審査の促進と適切な判断のための審査体制と品質管理体制の充実（浅見委員）
- ・重要案件の協議の促進と審判決や外部意見（マスコミを含む）の情報の共有化（浅見委員）
- ・品質管理の実施体制を充実することは重要であるが、他方で新しいタイプの商標については、ユーザーや需要者や取引等の新たな変化に的確に対応することが阻害されないよう、審査等において常に留意することが肝要（飯村委員）

- ・審査の品質向上及び効率化を支援するシステム開発の継続（小原委員）
- ・質の改善・保証のためには、業務に従事する全員の参画が不可欠。このような視点からの評価・見直しを行い、全員参加をどのようにして実現するかを検討（中條委員）
- ・審査官間の判断の均質性に対する改善（渡邊委員）
- ・ユーザー評価調査の充実（調査票数の増加）及び調査対象の拡大（中小企業、外国企業など）（渡邊委員）

（6）評価項目 品質検証のための取組に関するもの

- ・審査の品質向上及び効率化を支援するシステム開発の継続（小原委員）
- ・品質監査システム稼働による監査業務効率化に向けた運用の検討（長澤委員）
- ・ユーザー評価調査の充実（調査票数の増加）及び調査対象の拡大（中小企業、外国企業など）（渡邊委員）

（7）評価項目 審査の質の分析・課題抽出に関するもの

- ・「結果」と「取り組み」を区別して議論ができるようになったのは大きな進歩。それぞれについての「計画」と「実績」を明確にした評価・見直しができるようになればさらにもう一段レベルがあがる（中條委員）
- ・ユーザー評価調査の充実（調査票数の増加）及び調査対象の拡大（中小企業、外国企業など）（渡邊委員）

（8）評価項目 質の高い審査を実現するための方針・手続・体制（評価項目 ~ ）の改善状況

- ・改善を進める基本的な手続（=改善を報告する際のスタイル）について学び、その学んだ手続を用いた改善活動の整理（中條委員）

（9）評価項目 品質管理の取組（評価項目 ~ ）の改善状況

- ・改善を進める基本的な手続（=改善を報告する際のスタイル）について学び、その学んだ手続を用いた改善活動の整理（中條委員）

（8）評価項目 審査の質向上に関する取組の情報発信に関するもの

- ・国内外のユーザーに対する情報発信の強化（渡邊委員）

（9）評価項目 ~ 全般

- ・改善を進める基本的な手続（=改善を報告する際のスタイル）について学び、その学んだ手続を用いた改善活動の整理（中條委員）